

【上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）説明、同意書】

上部消化管内視鏡検査は、口または鼻から内視鏡を挿入し、食道、胃、十二指腸の一部を観察し診断を行う検査です。消化管の状態を詳しく把握するために、必要に応じて色素液の散布や生検（組織検査）、ピロリ検査等を行います。検査を楽に受けて頂くために、鎮静剤（眠くなる薬）、鎮痛剤（痛み止めの薬）を使用することが可能です。当院は鎮静剤を使用して、経鼻内視鏡（細いカメラ）を口から挿入する方法を導入していますが、方法に関してはご相談頂くことは可能です。検査前に胃の中をきれいに観察しやすくするための飲み薬を服用して頂き、咽頭や鼻腔の局所麻酔を行った上で検査を行います。検査時間は、5分～15分程度です。

検査に伴う危険性には以下のものがあります。

1. 局所麻酔によるアレルギー（ショックなど）が0.01%（1万人に1人）程度見られます。
2. 出血や穿孔（消化管に穴があくこと）が0.012～0.024%（1万人に1から2人）に見られます。血をさらさらにする薬を飲んでいる方は出血のリスクが高くなります。しかし、血栓症（脳梗塞や心筋梗塞など）予防の点から、処方医の指示がない限り自己判断で薬を中止しないで下さい。（中止にて脳梗塞や心筋梗塞などが発症することがあります）。出血のリスクが高いと判断した場合には、生検は行いません。出血や穿孔の状態によっては輸血、内視鏡治療、血管内治療、手術等が必要になることがあります。
3. 鎮静剤、鎮痛薬を使用すると、血圧低下や呼吸抑制が起こることがあります。アルコール摂取者や使用している薬によっては鎮静剤が効きにくい方もいます。検査当日は車、バイク、自転車などの運転は絶対にしないで下さい。公共交通機関をご利用下さい。また、ご高齢の方はご家族同伴でのご来院をお勧めします。検査終了後、30分～60分お休み頂いてからご帰宅頂きます。
4. 消化管の動きを抑える薬を使用した場合、心臓病、緑内障、前立腺肥大、糖尿病を悪化させる恐れがあります。

検査による合併症や、偶発症は非常に稀ですがあります。適切に対応させて頂きますが、症状によっては入院や手術が必要になったり、10万人に1人の割合で死亡例があると言われています。

上記内容についてご同意頂ける場合はご署名をお願いいたします。

上記検査内容について説明しました。

年 月 日 説明者名 _____ 印
代) 看護師名 _____

このしたクリニック院長殿

私は、上部消化管内視鏡検査の必要性、合併症など上記事項について十分に説明を受けました。

内視鏡検査を受けることに同意します。

年 月 日 患者氏名 _____ 印
代理人 _____ (続柄 _____)

このしたクリニック